

# 山形県酒田市日向地区における地域学習 —13年間の歴史を振り返って—

高橋 遥

筆者は大学3年次のゼミ活動のなかで、山形県酒田市日向地区における学校外教育に携わってきた。主に子どもの遊び場や世代間交流の場を提供する活動を行ったが、子どもが遊びながら学習し、新しいことに挑戦しつつ幅広い年代の方々と交流する場面を見て、あらゆる経験が子どもの成長を促進させ、豊かな生活を送るために必要なスキルを身に付けられる場所こそ「地域」なのではないかと考えた。

本研究で対象とする日向コミュニティ振興会は令和元年度ふるさとづくり大賞を受賞しており、地域一体となって支え合いの地域・まちづくりに取り組み、豊富な地域活動が強みである。筆者自身、ゼミ活動を通して学校外教育や日向での教育活動に関心を持ったため、「地域学習＝学校教育外の地域での学び」と定義づけし、本論文では2009年から現在にかけての約13年間の日向地区の地域学習の歴史をまとめ、その存在意義や今後の在り方を検討することを目的とした。

第1章では一般的な地域学習の定義と、学校外教育と学校内教育を比較しての本稿における地域学習を定義づけしている。

第2章では日向の取り組みに関して、「日向ぼっこスクール」・「秋祭り」・「親睦大運動会」の3つを取り上げ、活動背景やこれまでの取り組み内容、筆者が実際に参加したうえでの分析についてまとめている。

第3章では公益大と日向の関わりに関して、「プロジェクト型応用演習」における防災キャンプ、「長期学外学修プログラム」、「学生活動団体praxis」の活動、「にっこりランド」などを取り上げ、第2章と同様に活動経緯やこれまでの取り組み内容についてまとめている。

最後にまとめとして、約13年分の歴史を振り返り、子ども・地域住民・地域学習に関わる人の交流や相互作用の3点から地域学習の意義を考察し、「日向学習」の確立と今後の願いを述べた。